リオンの風

リオン株式会社
証券コード：6823

第99期 第2四半期 事業報告書

2019.4.1－2019.9.30

CONTENTS

トップインタビュー	1
特集❶ 創立75周年	5
製品史で見るリオン データで見るリオン	
トピックス	9
特集❷ 技術開発の現場から	11
製品別の概況	12
会社案内	13
株主メモ	14
音を科学する	裏表紙

トップインタビュー *Top Interview*

代表取締役社長
清水健一（しみず けんいち）

第2四半期の売上高・利益は、ともに過去最高を更新しました。長きにわたり愛される100年企業を目標に、さらなる成長を目指します。

Q1 上期の業績と通期の見通しについて、お聞かせください。

昨年の上期との比較におきましては、売上高で5.9%の増収、営業利益では32.4%の増益となりました。ただし、製品別に比較いたしますと、昨年度において販売が伸び悩んだ補聴器と医用検査機器は今年度上期においては大きく伸びましたが、昨年の売上高が過去最高を記録した微粒子計測器は逆に減収となっております。

当社が展開する3つの事業は、それぞれの市場の特性が異なるため、時として投資案件のタイミングや個人消費のタイミングがずれることによって、事業ごとの伸長のタイミングにずれが生じます。今回も、そのようなタイミングのずれが発生したと考えられ、ちょうどシーソーの両側に医療機器事業と微粒子計測器事業が乗って、ギッタン、バッタンと上下しているような様子に例えられると思います。そのような状況ではありますが、全体としては増収増益であり、過去最高の売上高と利益を更新しております。

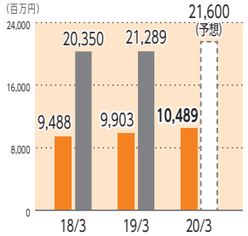
さて、通期の見通しでありますが、下期における個人消費の勢いは消費増税の影響から上期よりは衰え、補聴器の売上高も若干抑制されるものと見込んでおります。これに対しまして産業の米と言われます半導体の需要は、米中の貿易摩擦の影響があるものの総量として増加しておりますので、下期における微粒子計測器の売上高は上期を上回るものと見込んでおります。この結果、当社の通期の業績見通しは、前年をわずかに上回る程度の増収増益となるものと予想しております。

Q2 会社創立75周年を迎えての想いと、100年企業に向けた抱負をお聞かせください。

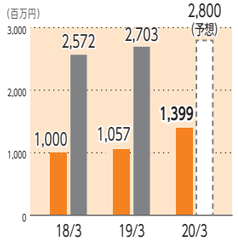
当社が小林理学研究所の研究成果を製品化するために設立されて、今年で75年、つまり3/4世紀となります。この間、当社独自の研究開発体

連結財務ハイライト ■第2四半期 ■期末

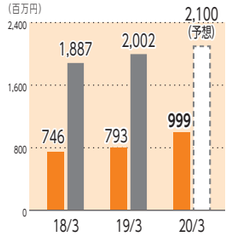
売上高



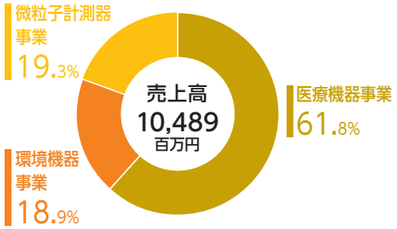
営業利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



事業別売上高構成比



■第2四半期業績サマリー

純資産	21,892
総資産	29,161
営業キャッシュ・フロー	1,679
投資キャッシュ・フロー	△563
財務キャッシュ・フロー	△276

(百万円)

売上高	10,489
営業利益	1,399
経常利益	1,437
親会社株主に帰属する四半期純利益	999

■業績予想

(百万円)

売上高	21,600
営業利益	2,800
経常利益	2,900
親会社株主に帰属する当期純利益	2,100

制を整え、今では小林理学研究所の研究成果に留まらず、広く音と振動の分野を探求し、微粒子計測の技術を確立するなど、独自の発展を遂げてまいりました。創設者の一人である小林采男(こばやし うねお)氏は、科学の力で世の人々を救うことを事業の目的に掲げておりましたが、彼の意思は、今でも当社の企業理念「すべての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する」の中に脈々と受け継がれております。75年を迎えた今年、株主様をはじめ関係各位の多大なご支援により、当社の事業が創立当時の意思を実現できていることを大変嬉しく感じ、心より感謝申し上げます。

今後とも、社会になくてはならない企業として、株主様をはじめ、お客様、地域の皆様に愛される存在であり続け、2044年の創立100周年を迎える頃にはさらに大きく飛躍している姿を思い描きながら、日々の精進を重ねてまいる所存であります。そのためには、世の中の変化とニーズを的確に捉え、常に新たな技術開発を怠らない姿勢が重要であります。イノベーション推進室や技術開発センターを中心に、日本初、世界初の歴史に新たなページを付け加えてまいります。

Q3 リオンの課題は何だとお考えですか。その課題を解決するためにどのような取り組みをお考えですか。

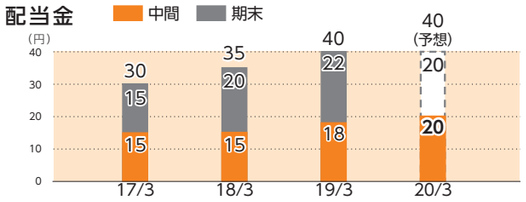
当社の歴史はトランスデューサの開発に始まります。トランスデューサとは変換器のことで、圧力を電気信号に変換したり、電気信号を圧力に変えたりする部品を指します。この技術を応用してマイクロホンやイヤホン、スピーカーが生まれ、補聴器や騒音計に使われています。また、地震計にも振動検出用のトランスデューサが使われています。

これらは当社製品のコアとなる技術ですが、物理現象を利用したハードウェアの技術です。ところが、今、世界では第4次産業革命とも言われる変化が起き始めており、従来のハードウェアの仕事をソフトウェアが肩代わりすることが多くみられるようになっています。

今のところ、トランスデューサはハードウェアが基本であることには変わりがありませんが、この先、どのような要素技術が開発されるか予断を許しません。

このような背景を踏まえ、当社では2つの方向を模索しなければならないと考えます。ひとつは従来のハードウェア技術にさらに磨きをかけ、他社との差別化を加速する方向です。もうひとつの方向は、ソフトウェアの技術を駆使して従来と同等以上の性能をもつトランスデューサを開発することです。いずれの方向もイノベーション推進室や技術開発センターが取り組むべき重要な課題となります。

Q4 株主様に向けてメッセージをお願いいたします。



前期の当社の当期純利益は20億286万円でした。これを発行済株式数で割ると一株当たりの純利益は163円14銭となります。これに対して年間配当金が40円でしたので、その割合は24.5%となりますが、これを配当性向と呼びます。

当社の配当金は、業績に応じて決定する方針ですが、配当性向を調べますと、過去5年間において20%台中ごろを上下しております。東証第一部に上場している企業の配当性向の平均は3割程度ですので、今後の業績にもよりますが、株主様への還元施策として、配当性向の向上を検討しなければならないと考えております。

今後とも当社への温かいご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

特集❶：創立75周年

製品史で見る**リオン**

当社は創業以来、企業理念に社会貢献を掲げ、人の生活の質の向上に深く関わる製品作りに取り組んでまいりました。
多くの皆様に支えられてきた当社は、今後も未来に向けた挑戦を続け、さらなる進化と発展を目指していきます。

1944
株式会社
小林理研製作所
（現・当社）を設立

1950年
補聴器が身体障害者福祉法
品目に指定

1946年
ロッシェル塩の圧電振動子を
使用したマイクロホン「M-101」
及びピックアップ「P-101」を発売

P-101

1956年
日本初のトランジスタ補聴器
「H-530」を発売

H-530

1959年
眼振計「NY-2301」を発売

1965年
振動計「VM-01」を発売

1967年
国産初のICを用いた補聴器
「HA-11IC」を発売

HA-11IC

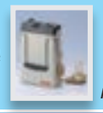
1970年
世界初のデジタル騒音計「NA-10」を発売

1971年
補聴器として日本初の
グッドデザイン賞を受賞「HA-27シリーズ」

1974年
日本初の騒音計における
計量法型式承認を取得
「NA-09、NA-07A」

NA-09

1981年
世界初の自動騒音
抑制式（ANS）補聴器
「HA-39AS」を発売


HA-39AS

1980年
地震計「SM-10」を発売

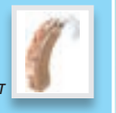
1983年
世界初の人工中耳の開発に成功

1984年
液中微粒子計「KL-01」を発売

KL-01

1984年
耳あな型オーダーメイド補聴器
「HI-02」を発売

1986年
世界初の防水耳かけ型補聴器
「HB-35PT」を発売


HB-35PT

1986年
4chリアルタイム1/N周波数分析器
「SA-26」を発売

SA-26

1991年
世界初の
デジタル補聴器
「HD-10」を発売

HD-10

2004年
日本初の補聴器シェル
自動生産システム
「リオネット夢耳工房」稼働

2005年
世界初の防水型デジタル
オーダーメイド補聴器
「HI-G4WE」を発売

HI-G4WE

2010年
国産初OAEスクリーナー
「ER-60」を発売

ER-60

2011年
世界初、水中の細菌を
リアルタイムで測定可能な
生物粒子計数器を開発

生物粒子
計数器

2014年
多機能計測システム
「SA-A1」を発売

SA-A1

2017年
独自開発のデジタル信号処理
技術を採用した
「リオネットシリーズ」を発売

HB-A2

2017年
世界初の軟骨伝導
補聴器発売

HB-J1CC

「100周年」
さらなる飛躍を目指して

2019
創立75周年

1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010

補聴器

1948年 日本初の量産型補聴器「H-501」発売

ミニチュア真空管を用いて開発された補聴器本体は、縦20cm、横10.5cm、厚さ3.5cmと弁当箱のように大きなものでした。しかも大卒初任給が数千円の時代に、1台5,000円とかなり高額でしたが、期待を上回る性能によって難聴の方から大変高い評価を受けました。

H-501

医用検査機器

1952年 当社初のオージオメータ「A-1001」開発

難聴問題の解決には、個人が装用する補聴器だけではなく、医療機関等において聴力の状態を的確に診断する検査機器が欠かせません。身体障害者福祉法施行や騒音公害への関心の高まりなどを背景に聴力を検査する「オージオメータ」は開発されました。

A-1001

音響・振動計測器

1955年 当社初の簡易騒音計「N-1101」発売

戦後の復興期、工場などの騒音が社会問題になりつつある中、マイクロホンなどの各種センサー類や補聴器などの音響製品を生産していたリオンは、それらの製造技術と小林理学研究所の音響物理学の成果を活かしながら、騒音計の開発に成功しました。

N-1101

微粒子計測器

1977年 当社初の気中微粒子計「KC-01」発売

微粒子計は空中や液中に浮かぶ微粒子の個数を計測する機器です。当初は輸入販売からスタートしましたが、より小型・軽量で、安定した性能の製品を開発、発売しました。この製品は当時急激な成長を始めた半導体産業のクリーンルームに多く納入されました。

KC-01

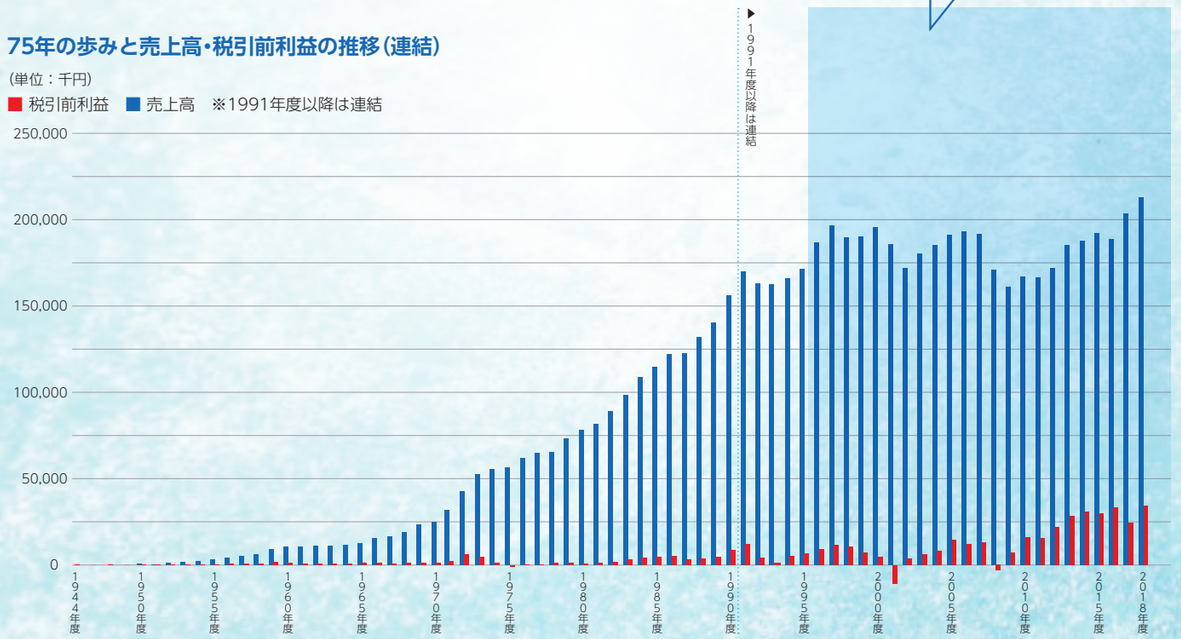
特集❶：創立75周年
データで見る**リオン**

75周年を迎えた「リオンの歴史」を見る！

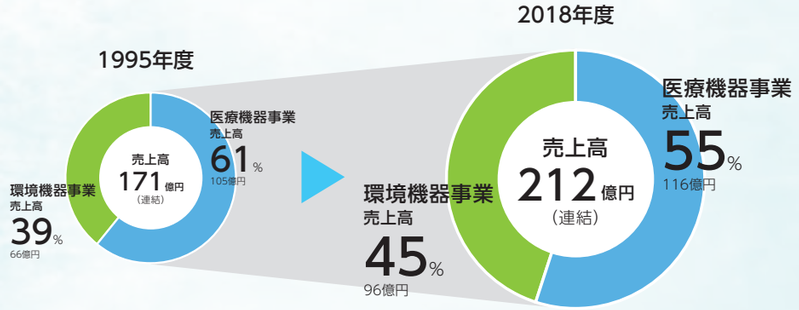
おかげさまで、当社は今年6月に創立75周年という大きな節目を迎えました。

店頭公開（1996年）以降における株価の推移

75年の歩みと売上高・税引前利益の推移（連結）



1995年度から2018年度までのポートフォリオの変化と拡大イメージ



リオンのはじまり

小林理研製作所 第1工場外観

当社は、音響学と物理学の民間研究所である小林理学研究所（現・一般財団法人）の研究成果の製品化を目的として、1944（昭和19）年、株式会社小林理研製作所の社名で設立され、わが国最初の音響機器用クリスタルエレメントおよびその応用製品の製造を開始しました。

さらに難聴者の福祉をはかるためにわが国初の量産型補聴器を発売し、リオネットの名で親しまれることになり、国内ではトップシェアを維持するとともに、海外にも福祉の輪を広げています。1960（昭和35）年には、理学の“リ”、音響の“オン”に由来する「リオン株式会社」に社名を変更しました。当社は補聴器のみならず、聴力を検査するオージオメータをはじめとした医用検査機器群、環境保全や産業分野で使用される騒音計・振動計などの音響・振動計測器群、半導体・薬品工業・精密工業などにおける清浄度管理に不可欠な微粒子計測器、震災を最小限におさえるための防災用・制御用地震計の地震計測システムなど福祉および環境問題を中心に製品分野を広げ、これらの製品群は国内はもちろん海外でも高い評価を得ています。これからも当社は、長い技術の蓄積とたゆまざる新技術への挑戦によって社会福祉の増進と安全な生活、技術革新に寄与することを誇りとして、その社会的使命の達成に邁進し、100年企業を目指します。

コーポレートブランドについて

社名：リオン株式会社の「リ」は理学の理、「オン」は音響学の音を表すものであり、理学に深く根ざした音響と、その関連する分野をさらに開拓する心意気を示しています。

シンボルマーク：会社ならびに全製品に対する性能、品質および信頼を表します。シアンブルーは行動力を、ウルトラマリーンは知性や気品を表現しています。

サブマーク：シンボルマークに対してサブ的に位置付けられるもので、リオンの心すなわち人間らしさ、優しさ、親しみやすさを表しています。

リオン

1 TOPICS 井上順さんが補聴器セミナーに登壇

当社は2019年2月より、タレント・歌手・俳優として幅広い分野でご活躍されている井上順さんを、聞こえでお困りの方や補聴器装用をお考えの方へ、ご自身の体験やメッセージを発信する「リオネット補聴器アンバサダー」として迎えました。

2019年7月21日、当社が開催した「リオネット補聴器セミナー(会場：京王プラザホテル札幌)」に出演された井上順さんは、ご自身の感音難聴に気付いたきっかけやリオネット補聴器との出会いのエピソードなどとともに、アクティブで豊かな生活を可能とする補聴器の魅力を伝えました。一人の補聴器ユーザーとして語り掛ける姿に会場の参加者が大きく頷く場面もあり、多くの方に補聴器との付き合い方を前向きに考えていただく貴重な機会となりました。なお井上順さんは、今後も各地で行われるセミナーの登壇など、補聴器アンバサダーとしての精力的な活動を予定しています。

講演する井上順さん

北海道講演会の様子

2 TOPICS ベトナムの国立フエ中央病院に聴覚検査ルームを開設

当社はベトナム中部の主要都市フエにある「国立フエ中央病院」に聴覚検査ルームを開設し、2019年9月18日に開所式を行いました。オージオメータをはじめとする聴覚検査機器を提供するとともに、機器の操作技術を指導し、厚生労働省委託事業「2019年度 医療技術等国際展開推進事業」のもと、今後は現地の医師や看護師に対して補聴器の勉強会等を行ったり、日本の医療機関に耳鼻咽喉科医師等を迎えて研修を実施していく予定です。

なお、ベトナムにおける当社のこうした取り組みは、北部ハノイの「国立バックマイ病院」、南部ホーチミンの「市立耳鼻咽喉科病院」に続き3例目となります。当社は、ベトナム国内における難聴の早期発見と難聴者の生活向上への貢献を果たすために、医師による聴覚検査機器を使用した検査と、適切に調整した補聴器の普及に取り組んでまいります。

開所式に臨む清水社長

フエで開催された開所式の様子

3 TOPICS 補聴器ができるまでを親子で見学

当社は、2016年より難聴の子どもたちのためのサポート企画「キッズ応援プロジェクト」を展開しています。その一環として、補聴器をお使いの小学生とその保護者の皆様を補聴器工場へ招待する「親子で工場見学」を毎年開催しています。2019年7月に開催された見学会には、3日間で16組52名の親子にご参加いただきました。

当日は、手話対応可能なスタッフが子どもたちに付き添い、見学場所に合わせてクイズが出題されるタブレットPCを全員に貸し出すなど、わかりやすく楽しいプログラムを実施。見学の感想として「写真を使用した資料や手話通訳など、説明が大変分かりやすい」「使用している補聴器の製造工程を見ることができてよかった」といった声が寄せられました。

当社は、これからも「聞こえ」を通して“子どもたちの未来を育てる”活動を進めてまいります。

補聴器の説明に耳を傾ける参加者の皆様

ワークショップの様子

4 TOPICS 個人投資家向け会社説明会を開催

2019年9月21日、当社は大和インベスター・リレーションズ株式会社主催の個人投資家向け会社説明会(会場：大和コンファレンスホール)に参加し、事業内容および経営戦略についてプレゼンテーションを行いました。

会場では、当社代表取締役社長の清水健一が400名近くのご来場者を前に登壇し、創業時のエピソードなども交えながら、50分間にわたりご説明しました。質疑応答では、リオネット補聴器の特長や海外空港における騒音計の事業展開などに関する質問があり、当社への高い関心が示されました。

当社は今後も、企業理念である社会貢献に基づいた当社の事業活動を多くの皆様に知っていただくために、全国各地で継続的かつ積極的なIR活動を実施してまいります。

プレゼンテーションに臨む清水社長

400名近くの参加者で満席になった会場

interview

特集❷ 技術開発の現場から

――技術開発センター長 インタビュー――

株主の皆さま、技術開発センター長の岩橋です。この紙面を借りて、当社が「未来を見る」姿勢を形にした技術開発センター(以下、TDセンター)の紹介をします。近年、AI、IoT、5Gそしてそれらを支えるICT(情報通信技術)が急速に進化し世界中の人々の生活環境に影響を与えています。当社の企業理念である「すべての行動を通して人へ社会へ世界へ貢献する」を永続的に実践するためには、この技術革新の波を無視して独自の道を歩むことはできません。

TDセンターは、製品群毎に分散していた全ての技術者を統合し、個々の知と技量を繋いで未来を創造することを目的に設立しました。設立に際して、異なる専門性だけでなく、異なる環境・職場で活動していた技術者が自然に交流を始め新しい発想を生みだすことを期待して、各人の固定席がないフリーアドレスの職場を作りました。現在、二つのフロアで約120人が活動しています。

この新しい職場には次のコンセプトが設定されています。①オープンで自由闊達なコミュニケーション空間　②技術者のプライドが競い合うシナジー空間　③発想の切り替えを誘導するリラックス空間。TDセンターはまだスタートしたばかりですが、このコンセプトを持つ空間から世界に影響を与える新たな製品やサービスを開発したいと思っております。例えば、先述のAI、IoT、ICTなどの先端技術を積極的に活用し、既存の4つの製品セグメントのラインナップ強化を図るとともに、SDGsを視野に入れた市場への取り組みも試みたいと思います。

当社は2019年に創立75周年を迎えました。当社の活動をお客様に支持していただいた結果であると大変感謝しております。TDセンターは、75年の歴史とともに作り出された実績に、今起きている技術革新を重ね、お客様の更なる支持を得て持続的な社会貢献を実現すべく未来を創造します。

技術開発センター内部

常務取締役 技術開発センター長　岩橋 清勝

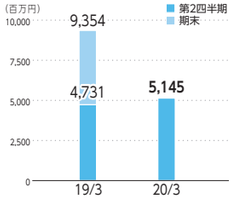
第99期第2四半期・製品別の概況　*Second quarter of the 99th term by product overview*

補聴器

リオネット補聴器

「リオネット補聴器」のブランド名で親しまれるリオンの補聴器は、高齢化の進展に伴う難聴者層の増加などを背景に、潜在成長力の高い補聴器市場において、お客様のニーズに寄り添った先進技術で業界をリードしています。

上期の業績は2019年2月に発売した中価格帯の補聴器「プレミエンス」の販売が好評を博したことから、売上高は前年を上回る結果となりました。

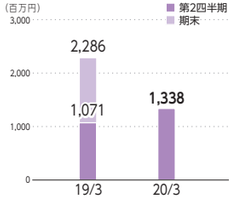


医用検査機器

オージオメータ

医療の考え方が、治療から予防、さらに健康医学へと広がるなか、「検査」の役割はますます高まり、機器の多様化が進んでいます。大学病院の臨床検査や、人間ドックの聴力検査など、医用検査機器は多くの医療現場のニーズに応えています。

上期については、大型の聴力検査室の大口受注があったことなどから、前年を上回る売上高となりました。

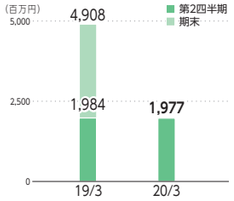


音響・振動計測器

振動計

騒音計、振動計、地震計など、環境行政や産業の多彩なニーズにきめ細かくこたえる製品を提供し、国内外の環境・産業計測市場を支えています。

上期の業績は、都市部を中心に好調であった騒音計の販売が前年には及ばなかったものの、鉄道向けに高額案件を受注するなど地震計が堅調であったことから、売上高はほぼ前年並みとなりました。

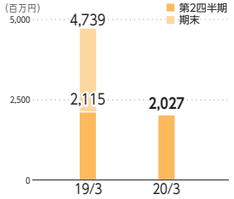


微粒子計測器

パーティクルカウンタ

微粒子計測器は空気や液体の中に浮遊する微粒子を計測しています。高い清浄度管理が求められる、半導体などの精密機械や医薬品、食品の製造現場では、微粒子計測器による微粒子管理が行われており、ユーザーからの高い信頼を得ています。

上期は、半導体関連市場に向けた液中微粒子計の最先端機種の販売が好調に推移しましたが、その他の微粒子計測器の販売が好調であった前年には及ばなかったことから、減収となりました。



会社案内 （2019年9月30日現在）
Corporate Data

会社概要

商　　号 …… リオン株式会社
本　　社 …… 東京都国分寺市東元町三丁目20番41号
創　　立 …… 1944年6月21日
資 本 金 …… 20億1,461万円
従業員数 …… 連結886名、単体496名（2019年3月31日現在）
事業内容 …… ○ 医療機器　・補聴器　・医用検査機器
○ 環境機器　・音響・振動計測器
○ 微粒子計測器　・微粒子計測器

株式情報

発行可能株式総数 …… 32,000,000株
発行済株式総数 …… 12,294,400株
総株主数 …… 5,105名

大株主

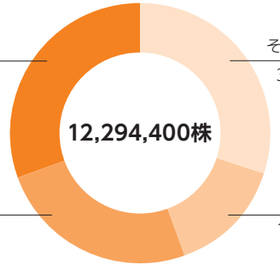
株主名	所有株数（株）	持株比率（%）
一般財団法人小林理学研究所	3,130,700	25.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	827,200	6.74
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	599,600	4.88
リオン取引先持株会	497,900	4.06
NORTHERN TRUST CO. (AVFC)SUB A/C NON TREATY	222,315	1.81
リオン従業員持株会	212,800	1.73
株式会社みずほ銀行	210,000	1.71
三井住友信託銀行株式会社	200,000	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	173,400	1.41
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	168,700	1.37

（注）持株比率は、自己株式17,240株を控除して計算しております。

取締役および監査役

代表取締役社長 …… 清水　健一
常務取締役 …… 岩橋　清勝
取締役 …… 若林　友晴
取締役 …… 加藤　公規
社外取締役（独立役員） …… 築野　元則
社外取締役（独立役員） …… 河口　正人
社外取締役（独立役員） …… 芳賀　圭子
常勤監査役 …… 山内　和臣
社外監査役（独立役員） …… 石谷　勉
社外監査役（独立役員） …… 佐久間 善弘

所有者別株式分布状況（持株数）



個人・その他　3,732,150株　30.3%
その他国内法人　3,695,702株　30.1%
金融機関　3,075,400株　25.0%
外国人　1,791,148株　14.6%

株主メモ
Stock Information

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当　毎年3月31日 中間配当　毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 （電話照会先）	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。 なお、株券電子化の際、株券を証券会社の口座に入庫しなかったなどの理由により、特別口座において管理されている株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
未払配当金の支払について	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

IRカレンダー

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

- 4月：決算発表
- 5月：決算説明会
- 6月：株主総会
- 7月：第1四半期決算発表
- 9月：第2四半期決算発表
- 11月：第2四半期決算説明会
- 1月：第3四半期決算発表

株主の皆さまへのお知らせ

株主の皆さまのご意見を今後の経営及びIR活動に役立てていくため、昨年に引続きアンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

詳細は同封のアンケート用紙をご覧ください。

回答方法　同封のアンケートハガキにご記入の上、郵送してください。なお、ご記入後はプロフィール部分の上に付属の個人情報保護シールを貼付け投函していただきますようお願いいたします。
ご意見をいただいた株主様に、1,000円分の図書カードを贈呈させていただきます。

締切日　2020年1月31日

音を科学する

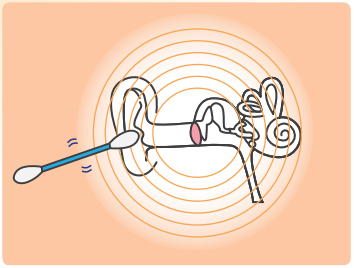
「音」を科学することで
様々な製品を
生み出してきたリオン。
このコーナーでは
「音」の不思議な力、
素朴な疑問を
紐解いていきます。

耳の奥にある鋭敏な膜

微かな空気の震えを音として感じ取ることができる鼓膜の感度は、極めて鋭いものです。鼓膜は直径8mm、厚さ0.1mm程度の膜状の組織で、その繊細な構造が気圧の変化に敏感に反応します。

シャワーを浴びた時などに水が耳の奥に入り込み、頭を動かすたびにゴロゴロと鳴る不快な体験は、誰もが思い当たるでしょう。その時、鼓膜を刺激している水滴の大きさは、ゴロゴロと感じる音から想像するよりもはるかに小さなものです。乾いた細い綿棒をそっと耳の奥に挿し入れ、水滴を取り除くことに成功しても、綿棒の先端にわずかな湿り気を感じる程度です。

水滴がうまく綿棒の先端に触れ、取り除かれた瞬間に、水が綿棒の繊維に滲み込んでいく際に発する非常に微弱な音が聞こえることがあります。そのシュワーという音を聞くことで、耳の違和感から解放される快感を味わった人も少なからずいると思います。あるいは、綿棒の先端が毛羽立っていて、繊維がうっかり鼓膜に直接触れるようなこともありますが、そんな時には大音響を感じて仰天させられます。



水滴といい、綿棒の繊維といい、鼓膜に加わる力はごく微かなものでしょう。ほんの小さな刺激が加えられただけで大音響を聞くことになるのですから、鼓膜という器官がいかに鋭敏であるかを知ることができます。

監修：工学博士　山下充康
出典：謎解き音響学（丸善）

株主優待制度のご案内

期末配当基準日（3月31日）現在の株主様を対象に株主優待を実施しております。

ジェフグルメカード（食事券）

100株以上▶　500円分
500株以上▶　1,500円分
1,000株以上▶　3,000円分
5,000株以上▶　5,000円分
10,000株以上▶　10,000円分
【追加】100株以上かつ3年以上継続保有※▶　1,000円分

※同一の株主番号で、毎年3月末と9月末の株主名簿に7回以上連続で記録された株主様を3年以上継続保有とみなします。

リオネット補聴器購入割引券

100株以上

※メーカー希望小売価格の10%割引
（片耳購入の場合は1台分）
（両耳同時購入の場合は2台分）

有効期間：1年間

リオン株式会社　〒185-8533 東京都国分寺市東元町3-20-41
TEL.042-359-7830（リオン株式会社 総務部 IR広報課）
https://www.rion.co.jp

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK